

(様式2)

令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業報告書

令和 4年 12月 12日

国際交流推進センター長 殿

事業責任者 (申請者)

所 属 理工学部 (自然科学域理工学系)

職 名 教授

氏 名 三島 伸雄

下記のとおり令和4年度佐賀大学研究者国際交流支援事業の実施結果について報告します。

1.国際研究集会名	日壇建築都市デザインワークショップ (環アジア国際セミナー)		
2.事業責任者 (申請者)	三島 伸雄	3.所属・職名	理工学部・三島伸雄
4.開催期間	令和 5年 2月 13日 ~ 令和 5年 2月 23日		
5.申請区分	A) 学術交流協定 (大学名) <input checked="" type="radio"/> B) 共同研究 <input type="radio"/> C) 一般		
6.参加者数 ※参加者名簿 (別添) を 添付	参加者数 <u>53</u> 名 内、 <u>外国人数 23名</u> 、 <u>研究者数 9名</u> 、 <u>学部学生数 15名</u> 、 <u>修士以上学生数 18名</u>		
7.招待講師	所 属 <u>ウィーン工科大学 (日本オーストリア科学交流センター)</u> 職 名 <u>上級講師2名</u> 氏 名 <u>Iris MACH、Thomas RIEF</u> 所 属 <u>アイントホーフエン工科大学</u> 職 名 <u>講師 (建築学科主任)</u> 氏 名 <u>Wouter HILHORST</u>		
8.支出額	金 額 <u>250,000</u> 円 【内訳】 <u>謝金 0</u> 円 (講師本人から謝金不要と申し込まれたため) <u>旅費 155,470</u> 円 <u>消耗品費 13,467</u> 円 <u>委託費 81,063</u> 円 (肥前浜宿水とまちなみの会への合宿実施委託)		

9.国際研究集会の内容

1) オープニング

2月13日、アイントホーフエン工科大学学生8名、ウィーン工科大学3名（1名は特別参加で2月17日迄参加）が到着し、佐賀大学生と合流した。

インターナショナルゲストハウスはがくれにて、JASSO奨学金等の受け渡し、自己紹介、今後のスケジュール等の説明を行った。その後、懇親会を行った。



2) 現地視察とレクチャー2月14日～15日

スクールバスをチャーターして、佐賀大学から肥前浜宿に移動した。昼食後、肥前浜宿を案内した。2つの重要伝統的建造物群保存地区を中心とする肥前浜宿の町並みまちづくりの経緯や特質、並びに各々で保存活用されている建物について、三島伸雄教授が解説を行った。また、峰松酒造場の観光酒蔵にて酒造について学習し、それを踏まえて本建築都市デザインワークショップで具体的に対象としている呉竹酒造場・一の蔵（以下、対象物件）の視察を行った。

2月15日には、午前中から午後にかけて、5グループに分かれて対象物件の活用提案に向けた建物調査等を行った。課題条件は、保存物件である一の蔵の道路から望見できる範囲並びに構造体の保存とし、増築は10m²以内とし、具体的な案件としてリアリティのあるものを提案することである。学生たちは、一の蔵の周辺建物を調査して回ると同時に、利活用を検討しながら対象物件の調査を実施した。



3) 2月16日~21日 当初案の作成・中間発表(2月17日)、最終成果物の製作

5グループに分かれた小グループ(基本、留学生2名+佐賀大学生1名)で当初案を作成し、中間発表を行った。小グループでの検討結果を踏まえ、最終成果物を製作していくために、学生同士で相談して2グループを再構築することにした。

この2グループにおいて、学生たちは提案のコンセプト、図面、模型等の製作、並びにPPTのプレゼンテーション資料の準備を行った。



4) 2月22日 最終発表・意見交換

最終発表は、鹿島市肥前浜宿・旧乗田家住宅で行った。呉竹酒造の一族で活用予定者である水頭元嘉氏、並びにNPO法人肥前浜宿水とまちなみの会のメンバー5名、鹿島市都市建設課の担当者2名が集まった。また、zoomで接続し、ウィーン工科大学日本オーストリア科学交流センター・上級講師Iris MACH氏とThomas RIEF氏、アイントホーフェン工科大学建築学部・講師Wouter HILHORST氏、佐賀大学生3名がオンラインで参加して、プレゼンテーションと質疑応答を行った。

提案内容は、A案が日本酒バーを受付空間とする少人数の宿泊施設を設ける案、B案が階段位置を中心部に

移設して全体が日本酒バーとして機能する案であった。肥前浜宿のどういうところがいいと思ったか、またどこに問題があると感じたか、一の蔵のどこが課題と考えて提案に至ったのか、将来的に実現するための課題等について質問があり、提案した参加学生と地元住民・教員等との間で意見交換を行った。

以上により、非常に充実した時間を得ることができた。

引き続き、新町公民館において地元住民との交流会を行った。





5. 2月23日 祐徳神社並びに鹿島市民会館視察

10時に肥前浜駅を出発し、日本三大稲荷である祐徳神社ならびに鹿島市民会館の視察を行った。

祐徳神社では、鹿島市の歴史的資産である神社とそこから海への景観を楽しむことができた。

新鹿島市民会館は、早稲田大学教授・古谷誠章先生が主宰する設計事務所NASCAによる建築である。その施工現場を視察し、設計事務所NASCAの山田氏、施工会社松尾建設の現場監督の方々の説明を受けた。表裏のない新しいホールディング・デザインについて、時間と空間を共有することができた。



10.事業実施による成果・今後の事業の発展等

1) 事業実施による成果

本事業の実施による成果は、以下の点を上げることができる。

- ・ 佐賀県内の地域性、その中での魅力等を海外の学生たちと共有することができた。
- ・ 日本のことを詳しく知らない外国人学生たちからの新しい目線を交えながら、鹿島市肥前浜宿・呉竹酒造に対するリアリティを持った提案を行い、意見交換を行うことができた。これにより、建築主である水頭元嘉氏にとっても考えを整理していく上での将来像を持っていただくことができた。
- ・ 建築を目指す日本人の若手研究者（大学院生）にとっても、短期間ではあるが、外国人学生と密度の濃い時間を過ごしながら英語で議論し、プランニング・デザインを考える貴重な機会を提供することができた。

2) 今後の事業の発展等

- ・ 今後も継続的に国際ワークショップを実施し、教育研究に役立てると同時に、より多様な考えを共有する。具体的には、3月28日～4月3日にタイの大学（チェンマイ大学、カセサート大学）との国際枠ショップを実施する予定である。また、ウィーン工科大学から、2023年夏にウィーンで実施したいとの提案がきており、学生を派遣する予定である。
- ・ 今回の提案を受けて、対象建物である呉竹酒造一ノ蔵の施主である水頭元嘉氏として、改修・運用の検討が行われる予定である。しかしながら、水頭家だけでは資金不足であることなどから、「精米所、一番蔵の具体的活用について、せっかく先生に種々検討頂いておりますので何とか実現する方向で持って行きたいと思っております。但し、水頭家だけでは資金、及び完成後の運用におけるマンニング、事業管理の部分がまだ見えませんので、これら改装、事業運用においては、パートナー企業もしくは行政との連携が不可欠だと思います。」との返答を得ている。また、その際には、アドバイザーとして協力することを予定している。
- ・ JASSO の海外留学支援事業（受入）は来年度不採択であったが、派遣は採択であった。引き続き申請をして、佐賀県の国際化にも貢献できるよう、国際交流を続けていく予定である。

※欄内に収まらない場合、適宜、行を追加し、ページを増やしていただいても構いません。